

◆◇植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン vol.80◇◆

2017年3月10日号(第80号)

◇◆ INDEX ◇◆

1. 大学院入学説明・相談会のご案内
2. 共同研究(者)紹介について
3. 研究成果の紹介:投稿のお願い
4. あとがき

◆◇◆◇

1. 大学院入学説明・相談会のご案内

3月24日(金)に大学院入学説明・相談会を開催します(13:00~)。  
<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/education/education4.html>  
植物研の大学院に進学をお考えの方は、是非ご参加ください。  
また、興味のある方へのご周知もよろしく申し上げます。

植物研では、2ヶ月に1回、「大学院進学説明会」を開催しています。  
詳しくは、ホームページ等で順次お知らせいたします。

【お問い合わせ先】

岡山大学資源植物科学研究所 鈴木信弘

TEL: (086)424-1661 E-mail: [nsuzuki@rib.okayama-u.ac.jp](mailto:nsuzuki@rib.okayama-u.ac.jp)

2. 共同研究(者)紹介について

当研究所は、平成21年6月に文部科学大臣より共同利用・共同研究拠点「植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点」として認定され、平成22年度から共同研究課題の公募を始め、毎年度40-50課題を採択し、共同研究を行っております。第57号のメールマガジン増刊号より、植物研メンバーと共同研究を推進されている方々の研究(者)紹介記事を順次掲載することになりました。つきましては、共同研究担当者の皆様に投稿をお願いしたいと思います。

内容は、研究内容のご紹介、植物研へのご意見、拠点共同研究のご感想、自己紹介等など何でも結構です。400字から700字程度でお願いできればと思っております。

原稿はメールで [admin@pssnet.org](mailto:admin@pssnet.org) へてにお送りください。多数の投稿がありました場合には、掲載が遅れることもありますので、ご容赦ください。

### 3. 研究成果の紹介：投稿のお願い

このメールマガジン本体とは別に、毎月 25 日に増刊号として研究成果紹介号を発行しております。植物ストレス科学の研究成果を PSS net のなかで広く共有できることを目指しております。PSS net 登録メンバーの皆さまの最新成果の論文をご紹介ください。

毎月 20 日までに [admin@pssnet.org](mailto:admin@pssnet.org) へてに、以下の形式で情報をお送りください。

(日本語紹介) <改行>  
(著者) <改行>  
(タイトル) <改行>  
(掲載誌情報) <改行>

<例>

分子、細胞、組織レベルでのイネとイネ科植物における耐塩性機構についての総説。  
Horie, T., Karahara, I., Katsuhara, M.  
Salinity tolerance mechanisms in Glycophytes: An overview with the central focus on rice plants.  
Rice 5:11 (2012)

皆さまの投稿をお待ちしております。

### 4. あとがき

今年は冬らしい冬だった（未だ寒さ厳しいところもおありかと思いますが）ような気がします。年度末の 3 月を迎え、学会シーズン、学生の卒業、教員の送別と忙しい時季ですね。卒業と言えば、逆の入学も大きな行事です。迎え入れるのは来月になってからかと思いますが、その前段階の大学入学試験はかなり前からの準備となります。岡山大学も先月前期試験を終え、もうすぐ後期入学試験を迎えます。ニュースで大きく話題にされることもないということは、入学試験（センター試験も含めて）は概ね大きな問題も無く無事済んだということではないでしょうか？胸を撫で下ろしておられる方も読者の中にはおられるかもしれません。

何事もなく当たり前の入試、もしなんらかのミスが発覚するや、その対応（受験生やメディア）には非常に大きな労力をさかなければなりません。入試監督も入試問題の作成も神経を使います。問題作成にあたっては長い時間を割いて問題を吟味し、何人もの目で吟味し、大変なエネルギーを消耗します。ましてや、その委員会の委員長に

いたっては、ほかの仕事ができない状態に陥ることもままあると聞いています。幸い、植物研の教員は入試に深く関わることは免除されています。しかし、稀に入試問題の作成に携わることがあります。筆者の知り合いでこの PSSNet の会員でもある方は、入試の責任者を何年も続けておられます。今年も務めたのかどうかは確認しておりませんが――。本当に頭が下がります。

筆者の経験では、米国の大学教員が大学入試に深く関わるという話を聞いたことがありません（大学院生の獲得に熱心な姿は遭遇した事があります）。大学によって違いはあるのですが、高校の成績、SAT (Scholastic Assessment Test、大学進学適性試験) あるいは ACT (American College Testing) テストの点数、推薦状、小論文の提出が求められるということです。先日、植物研主催の国際シンポジウムが開催されました。あるヨーロッパからの参加者の方に尋ねたら、日本の制度に近いと言っていました。どちらの制度が良いのかわかりませんが、教員が深く関わる日本での入試制度は大きくは変わらないのでしょう。

今回もとりとめのないことを書きました。来年度もよろしくお願ひ致します。

\*\*\*\*\*

「植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン」

■発行日 2017年3月10日

■発行元 岡山大学資源植物科学研究所

植物ストレス科学研究ネットワーク (PSS net) 委員会

■WEB サイト <http://www.pssnet.org/index.html>

メールマガジン登録変更・解除の手続きは

<http://www.pssnet.org/howto/maillist.html>

をお願いします。

\*\*\*\*\*

(このメールは送信専用メールアドレスから配信されています)